

文學士 小林 一郎 先生 新著

第三版 自由の生活

思想界の混亂は實に未曾有である。吾等は此間に處して如何に吾等の活路を開いて行くべきである

か今は徒に樂觀するを許さぬ又徒に悲觀すべきで無い。之を過去の経過に徴し現在の情勢に照して今後の立場を確と定めなければならぬ著者は此の見地から日本の文明の過去及現在に對して自由なる批評を試みた。現代に處して意義ある生活を爲さんとする人々の一讀を勧める殊に青人の人々と青年の指導の任に在る人々は必ず精讀すべきである。

内容 目次

萬事は是からである……誰が責任を負ふのか……國は自分のものである……武士と百姓町人……忠義を誰に盡すのか……倭寇と海外貿易……町人の意氣抱負……自ら重んずるの觀念……徳川氏三百年……事無から主義……鎖國の二百年……利用厚生……道……流れぬ水は腐る……町人の氣焔の吐き所……西力東漸の勢……幸運に押れてはならぬ……尊王攘夷……皮相なる西洋大局に注ぐ者……國家の柱石たる覺悟……少壯者の時代……國體の精華……皮相なる西洋文明觀……近世文明の特色……貴き犠牲……自ら侮れば人之を侮る……日本人は劣等の人種か……科學と信仰……功利主義の繁昌……自由平等論の勃興……自治とは何であるか……世界の眼……百年の後

四六判最上製美本
紙數五百五十五頁
正 價 貳圓五拾錢
送料 金貳拾錢

三島章道氏新著 好評嘖々増刷出來

和譯 孟子

菊 判 半 截 本
最上製美本全壹册
金壹圓六拾錢
送料 十二錢

好評再版

孟子の思想は明らかにミリアリズム(覇道)を排し愛を以つてヒユウマニズムとデモクラシイを行ふとする者である。私は昔の道學先生の様に孟子の如き聖人の言葉とし云へば一から千まで頭から全部を無考察無反省無條件に感心崇拜しやうとは思はない者であるが、今を去る二千有餘年前の先哲學孟子の言葉を現代に照して赫々たるものが澤山ある我々はその偉大な言葉の前にはどほしても心底から頭を下げて居られやう。眞理は何年たつても眞理である。今や現代人はヒユウマニズムとデモクラシイの上に立たうとして居る秋、孟子の言葉には如何に鋭く我々の心に響くであらう。東洋人である我々は先づ東洋のデモクラシイを研究するのが一番早道ではないだらうか。私は昔の道學先生等の云ふやうに「日本人はどうしても漢學や儒教で行かなくてはいけない」とは云へないと思ふけれど「日本人は東洋人なり故に世界のどの人種よりも一番早くピツタリと東洋の思想を理解するものなり」とは云へると思ふ。孟子の解釋本は數十種あるが平易に現代語に譯されたものは一冊もない私はそれを愛へてこれを何等「漢學」なるものに拘泥せず自由なる心持を以つて極く平易なる現代語に翻譯し以つて偉大なる孟子の深遠なる思想をダイレクトリイに讀者に傳へやうとしたものである。現代青年の手によつて譯されこの孟子には漢學先生のお講釋とは又違つた別の味があると思ふ。

譯者

—(數年の努力に成れる熱烈眞摯の研究)—
白石實三氏新著 ■ 【新味獨特の藝術品】

最新刊

武藏野巡禮

四六判上製美本
正價 壹圓卅五錢
郵稅 八錢

萩。薄。蟲聲。曠野。月光、四季を通じて武藏野は繪の如く詩の如し、武藏野を知り武藏野を愛し武藏野を慈しむに於て著者は現代第一人者である。本書は著者が巡禮探勝實に數年悉さに武藏野の自然を見人を見、兼て其處に生起する土地河川都市田園等の各社會問題を考察せる熱烈眞摯なる研究書也。文や清新豊麗一種獨特の新藝術品を完成し在來の紀行文の舊型を打破して別に史實に一新生面を拓けるもの新藝術品愛好者は勿論武藏野及郊外愛慕者は必ず本書を繰いて此の美玉の如き抒情詩を愛誦せられよ

内容目次の一

- 武藏野巡禮：薄の武藏野：淀橋ガスタンク：奥澤の佛像：落葉林の美：癩病院
- ：木下川薬師：東武藏野の瞥見：曠野の望樓：狭山の丘の旅：高麗王の碑
- 西武藏野：鎌倉街道：多摩川の渡頭：武藏野の花と新緑：近郊の散策：武藏野
- の夜をゆく：故國の山水：高原の異國人街：栗橋の水榭：關東平野横斷：國分
- 寺の合營：北武藏野の町々：外數十項

52
63

終